

(別紙4(2))
目標達成計画

事業所名 :ふれあい家族の家

作成日 : 平成22年 4月 5日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	急変や事故発生時に対応に不安を感じている職員が多い。	予測できる急変や事故発生時に落ち着いて対応できる。	予測される急変や事故の対応について看護師による定期的な勉強会の実施(法人内の看護師に依頼する)救急法についての講習会消防署に依頼して勉強会をおこなう。	6ヶ月
2	11・12	入居者の状態が身体面でも重度化しており、ゆとりのある生活支援をおこなうには、設備や機具等の環境整備が必要になってきている。また、それに伴い勤務状況や人員配置等が厳しくなっている。	物理的環境・人的環境を整えると同時に業務の改善を全員でおこなう。	管理者や主任が主となり全員から聞き取りし現状を把握した上で、環境の整備と業務の見直しを細かく分けて優先度の高いものや直ぐできることからユニット会議のなかで決まったことを代表者(介護部管理者)会議で協議していく。	6ヶ月
3	20・24 48・54	重度化するなかで今までの人生の記憶が薄れてきておられる。進行度にあわせた支援が必要であるが、過去の暮らしぶりの情報が少ない。	一人ひとりの生活史を大切にしたい支援ができる。	生活史の作成を本人、家族とともに作成する。スタッフが進め方を把握した後本人や家族に説明をして承諾していただき、ユニットで月毎に計画して情報収集したものをアイデアを出し合いながら進めていく。まずは、一人からはじめる。	1年
4	2・20・29	地域との交流が増えているが、町内の活動を知ることやご近所付き合いが不十分である。	スタッフ全員が町内の活動を知ることや町内の活動に出掛けて馴染みになる。	福祉会に交代で付き添ったり、運営推進会議に参加して顔馴染みになる。	1年
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

